

## 幼稚園に於ける

### 自由遊の地位

大塚 喜 一

大正十三年夏大阪に於て倉橋教授が「幼児教育原論」と題してせられた講習は、地方に居て先生の御聲咳に接する機會の少なかつた私にとつては實に尊き賜物であつた。此講習に依て私は「幼稚園に於ては、子供に事物を教ふるよりも子供の生活それ自身を育てる事を主とすべきであつて、茲に保育の保育たる意義がある」と考ふるに至り、更に此保育の意義を發揮せしむるには、幼児の自由遊を保育の中心的地位に置かねばならぬと考へたのである。

幼兒が幼稚園に來てから歸る迄の時間の半以上は自由遊の爲に占有せられて居る。しかも其自由

遊は内容としてすべての保育科目を其中に含んでゐる。斯かる關係を比喩的に言ひ表はせば、自由遊は我々の食事に於ける米飯の如きもので、其他の設定保育は副食物に比すべきであらうか。副食物は米飯の單純なるに比して種類も多く變化に富んでゐるから興味を惹き易く研究され易いが、しかしあくまでも主食物たる米飯に副ふべきものである。尤も宴會等の場合には御馳走を澤山並べる事もあるが、いつも左様な事ばかりをしてゐては消化不良を起すか又は滋養中毒になるであらう。米飯と副食物とが身體内に入つてから其要素々々に分析されてどういふ風に交互に相互作用するかは別問題として、設定保育によりて如何にして自由に遊び得る力が養はれるか、又は自由遊を心ゆくまで充分にする事によりて如何にして設定保育を受くべき素地が養はれ更に進んでは設定保育の目指してゐる効果が得られるか。此様に考へて各保

育科目を自由遊を中心として眺めて行く事、自分の力一ぱいに思ふ存分に遊べる様に爲るために又は如何にして遊ばんかと自ら發明し發見し得る様にとといふ風な教育効果は各保育科目によつて如何にして得られつゝあるかを思ふも又一つの考方でありませう。(後說實例參照)

今朝(七月二十七日)倉橋先生の御話の中に「保育作用に於て無用の積極的方法が用ゐられるのは保育の本質の積極性を充分に確認してゐないからであると云はれたのは、實に當を得た言葉と思つたのである。幼兒の具體生活が全一的に渾融せるものであつて保育とは即ち此生活を保ち育ててゆくものである事を思へば、之を抽象化し又は切々に分化し分解する如き大人の手を加へる事は決して許されない筈である。自由遊に於ては斯かる有害なる干涉が無い譯であるが、しかも幼兒をして各自の本性に由れる活動を爲さしめんが爲には、

詳く云へば幼兒の一人一人の本性が外界の不自然なる束縛も受けず内心の煩惱や性癖にも妨げられずして眞に無碍自在に發揮されむが爲には、内界も外界も適當なる状態に置かれねばならぬ。幼兒保育の本質上要求せらるゝ積極的努力の最大なるもの、第一に位する者は、實に幼兒達の自由遊を可能ならしむべき計畫や指導でありませう。其一の具象的實際は各園各々の特色もあらうが、只設備を自由遊に適する様に研究する事は何處にても用ひらるゝ模範例又は法則を産みはしないか。かくして種々の方面からの努力が綜合されて、幼稚園に於ける自由遊が圓熟して來た時は、實に其幼稚園の赤裸々なる實力が最も明に現はれてゐる其處には新しき遊び方、新考案の玩具、新見地の保育科目等が期せずして創作せらるゝ事もあらう。自由遊は實に幼稚園に於ける最も平凡なるしかも最も興味深き問題であつて、私の如き者が述

べるべき柄ではないが係りの方からの御要求があつたので失禮とは思ひつゝ私が平生最も重要な問題として考へて居る所を研究問題として發表させて頂いた次第である。何卒今後斯道に御體驗深き實際諸賢より此問題について御發表あらむことを御願ひする次第である。

## 感想

### 高松玉藻幼稚園 推名 靜枝

子供の時分に感じた事が現在、大人になつた自分のやつて居ります事の導火線になつて居ります。お砂場に遊んで居ります子供を海岸に連れてまゐりますと、とても元氣になります。机の上から、土の上、砂の上に繪を持ち出させますと繪が大きくなります。私は子供を限りなく伸ばし果てしもなく廣い世界に放ちたいと思ふのです。曾つて、

私が幼稚園児だつた時、先生が私の畫いた繪について、其んな富士山はないとか、そのすぢから出てはいけぬと御仰いましたが、だつて私は富士山は見たことがない。だつてこのすぢの上まで續いて居るのですものと言いたかつた衝動を覺えて居ります。私は子供の思想を何處までも伸ばし度いと思ひます。子供は大きいものを要求致して居ります。そのためには粘土製作がよいのです。

私が始め幼稚園にまゐりました時、ぜんまい仕掛の玩具、きれいな玩具——それは持つて遊ぶ玩具ではなくて百貨店の飾窓式に只眺めるのです——それが澤山飾棚にありました、この頃それは一塊の粘土と變つて仕舞ひました。

粘土の前に立つ時幼児は非常によろこびました製作するに先だつて保姆自身が粘土の製作を致して居ります。さうすると幼児はその周りに寄つて来て、其處にある大きな粘土の塊から自分達も作